



夏の甲子園 頑張れ

光星高に達者米100キロ

南部町の生産者が贈呈

八戸

南部町の地域ブランド米「南部達者米」を手掛ける生産者部会（山道金太郎会長）は25日、第101回全国高校野球選手権青森大会で優勝し、2年連続10度目の夏の甲子園出場を決めた八戸学院光星高等学校部会に対し、達者米100キロを贈呈した。

同校の系列校である八戸学院大、八戸学院短期大学部と同町が連携包括協定を結んでいる縁から、初めて企画。達者米は、農業や化学肥料の使用量を通常の半分以下に抑えた「つがる口マン」の特別栽培で、今回は市場デビュー2年目となる前年産を充てた。

この日は山道会長ら部会メンバーと工藤祐直町長らが同校を訪問。山道会長は仲井宗基監督、武岡龍世主将に「安全、安心な達者米をエネルギーに、日頃の成果を発揮して」と激励した。仲井監督は「部員は皆、食べ盛りなので大変助かる」、武岡主将は「しっかりと食べ、甲子園で活躍したい」と感謝を述べた。

（井上周平）

武岡龍世主将（左）、仲井宗基監督（左から2人目）に南部達者米を贈呈する山道金太郎会長（右）と工藤祐直町長